



史蹟史料部

2022 年 7 月 4 日

#7

日本人墓地公園 ニュースレター

音吉ここに眠る

日本人墓地公園の納骨堂に眠る、シンガポールの地に一番初めに定住した日本人・山本音吉についてご紹介します。

山本音吉（英語名ジョン・M・オトソン）は、尾張国知多郡小野浦村（現在の愛知県美浜町）に生まれ、1832 年に伊勢湾から江戸へ向かって出帆した千石船「宝順丸」に船員として乗り組んでいましたが、遠州灘沖で嵐に遭い、1 年 2 か月に及ぶ漂流の末、現在のアメリカ合衆国ワシントン州ケープ・アラバに漂着しました。

その後、歴史の流れに翻弄されて結果的に世界一周し、アメリカ船モリソン号で日本への帰国を試みましたが、当時の鎖国政策により拒絶されました。母国から捨てられても日本人としての誇りを失うことなく、日本の開国にも関わりながら貿易商として成功を収めた音吉は、1862 年に

上海からシンガポールへ移り、日本人の定住者第一号となりました。当地で 5 年を過ごした音吉は 1867 年に生涯を終えました。

音吉と同じような運命をたどりながらも日本への帰還を許された大黒屋光太夫やジョン万次郎は日本の教科書でも取り上げられていますが、シンガポールと縁の深い音吉が日本国内であまり注目されないのは残念なことで、音吉についての研究は出身地の愛知県美浜町では斎藤町長が中心となり、アメリカ、イギリス、中国、シンガポールなどで音吉の足跡調査が続けられました。

音吉が病死後ブキティマ・ロード沿いのキリスト教墓地に葬られたのは当地に残る埋葬記録から明らかでしたが、同墓地が 1970 年の都市計画で取り壊された後、遺骨の行方は長らく不明となっていました。それが判明したのが 2004 年 2 月のことでした。

173 年ぶりの里帰り

その後シンガポール土地管理顧問リヨン・フォク・メン氏の調査によって、音吉の墓地がチョア・チュー・カン国立墓地に移葬され現存することが判明しました。そして、関係当局の許可を得て遺骨を掘り起こすことになりました。



長年、土の中で眠っていた骨壺が顔を出した瞬間
左端が音吉の骨壺

(写真：南十字星 2005 年 February 号より)

これを受けて、愛知県美浜町、シンガポール日本人会、シンガポール政府観光局が連携し、骨壺から出たものは砂もすべて火葬場で茶毘にふされて遺灰となり、新たに準備された骨壺 3 個に分けられ、そのうちの 1 個は 2004 年 11 月 27 日、日本人墓地の納骨堂に安置しました。

残りの 2 個の骨壺は、2005 年 2 月 17 日、美浜町民をはじめとする百有余人の訪問団が音吉の御霊を迎えにシンガポールを訪問し、日本に運ばれて宝順丸遭難者を祀る寺と山本家の菩提寺に埋葬され、音吉は 173 年ぶりに祖国日本への里帰りを果たしました。



3 個に分けられた骨壺
(写真：南十字星 2005 年 April 号より)



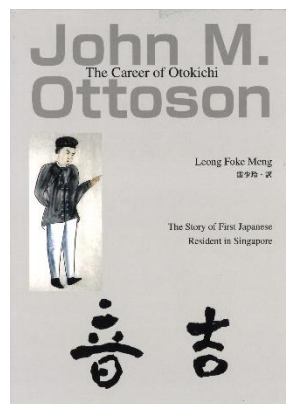
日本人墓地公園の納骨堂は御堂の隣にあります



チンゲイパレード 2005 日本人会は音吉がメインテーマ
宝順丸に見立てた山車を中央に大勢で踊りました

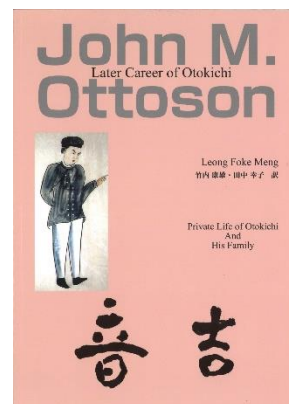
(写真：南十字星 2005 年 April 号)

日本人会クラブショップでは史蹟史料部 オリジナル書籍を販売しています



John M. Ottoson
The Career of Otokichi

\$10.2



音吉 John M. Ottoson
-Later Career of Otokichi-

\$9.6